

設立 平成24年 5月15日
開塾 平成24年 9月 8日
発行 令和 7年 8月 9日
(147号)

【事務局】 〒567-0861
茨木市東奈良2-7-10
人間学塾・中之島
事務局 古田修平
編集長 西村俊幸

中之島ニュース

■命の本質とは
私の父の夢は小学校の先生になることでした。それが、それは叶わず、その夢を私に託しました。私が横浜国立大学に入学したのは、安保条約反対で日本中が荒れる一九六〇年のことです。大学では柔道部に入つたのですが、練習の時に受け身を取り損ね、意識不明となり救急搬送され

出来事がありました。あたりは火の海、私は三歳、母は生まれたばかりの妹を背負つて逃げました。こんな時代が私の出生でした。森先生もまた、出生の時代背景は非常に複雑で、両親に育てられず養子に出されることを体験されています。悲劇は人間にとつて忘れないことがあります。私が、私にとってもおそらく森先生にとつても、このことが人生の原点なのです。

今も私の記憶にあるのは、ギュウギュウ詰めの防空壕です。次々に落ちてくる爆弾、苦しくて母の背で泣き続ける妹。ようやく空襲が終わつて外に出た時、妹は亡くなつていました。母は号泣し叫び、父はなにも言わずにぼとぼと涙を落した。人間にとつて人との出会い、ことに肉親との出会い、そして別れは強烈な印象がある。自分にとつて、生きていることの大切さを知つた最初であり、このときの光景が私にとっての命の原点です。

【命の本質とは】
私は一九四一年東京で生まれました。この年の一二月に戦争が始まりました。ご存じの通りこの三年後には東京大空襲があり、一晩で10万人が焼け死ぬという凄まじい出来事がありました。あたりは火の海、私は三歳、母は生まれたばかりの妹を背負つて逃げました。こんな時代が私の出生でした。森先生もまた、出生の時代背景は非常に複雑で、両親に育てられず養子に出されることを体験されています。悲劇は人間にとつて忘れないことがあります。私が、私にとってもおそらく森先生にとつても、このことが人生の原点なのです。

今も私の記憶にあるのは、ギュウギュウ詰めの防空壕です。次々に落ちてくる爆弾、苦しくて母の背で泣き続ける妹。ようやく空襲が終わつて外に出た時、妹は亡くなつていました。母は号泣し叫び、父はなにも言わずにぼとぼと涙を落した。人間にとつて人との出会い、ことに肉親との出会い、そして別れは強烈な印象がある。自分にとつて、生きていることの大切さを知つた最初であり、このときの光景が私にとっての命の原点です。

【水滴の一滴】
大学を卒業し、小学校の先生になりました。毎日楽しかつたのですが、通信簿をつけるのが辛い。みんないい子たちで「1」の子どもなどいないのです。その評価する辛さに耐えられず、四年務めた教師を辞めました。誰かが誰かを評価するのではなく、本当にいきいきできる暮らしがあるはずだと日本中を巡りました。共に学び共に生きる。その思いを胸に理想の共同体を求めていた頃、森信三先生とご縁をいたしました。先生は着物姿でびっくりするほど大きな声で迎えてくださいました。先生は初対面の私の本を既に読んでおられ、親身になつてくださいました。その後森先生の勧めがあり、横浜市職員として、横浜寿町という日雇い労働者の町で、教育を受けていない多くの子どもたちと住み込みで関わるようになりました。三〇歳のときでおろそかにしては何事もならないのです。



■命の原点

【命の本質とは】
その後先生は、長男を亡くされ、独居生活になりました。その後私は横浜市立大、沖縄大学と仕事をさせていただきましたが、その間も森先生とさまざまに相談をし、「本当の意味で大学が変わらない」と話をしました。先生はこう言われました。「本質的なことは教員が命に目覚めることだ。命に目覚めると、相手と自分が一緒になって、共に苦しみ、共に喜ぶ関係性ができる」と。つまり教師は教えるではなく、学び成長する人。君にできるのならやれ。

【水滴の一滴】
森先生は開かれたコンミューンと言われた。共同体といえど小さなところは必ず孤立する。たつた一人でよいから仲間を作り、自分の思いの個人通信を出していくと、お互いの心が通じ合い、それがコンミューンとなる。それが本当の共同体だと言われました。一人一人が離れていても心が通じ合つていくこと、そして、大切なことは、一人一人が種をまくこと、一緒になつて支え合うことが開かれたコンミューンだと言わされました。

【水滴の自叙伝】
『水滴の自叙伝』という自分史を書いたとき、自分は水滴の一滴だとはつきりと自覚しました。そこまで大きく変えてゆく原点は、一粒の水滴。一滴をて天に昇り再び雨になり循環してゆく。時代を大きく変えてゆく原点は、一粒の水滴。一滴をおろそかにしては何事もならないのです。

「出会いの人間学」

野本三吉先生
(七月度特別講義より)

《グループ討議》 野本三吉先生

Aグループ

- ・共に学び共に生きる

- ・人間は関係の中で生きている

- ・一滴は大河の源 水滴として生きる

Bグループ

- ・一滴の水滴を次の世代へ繋いでいく

- ・共に学び共に生きる

- ・人間は関係性があつて開かれたコミュニケーション

(共同体) になる。

Cグループ

- ・共に学び共に生きる
- ・水滴の一滴として生きる
- ・次世代への種まき

Dグループ

- ・生きることは人間関係が大事
- ・水滴の一滴として生きる
- ・命はお互いに交流すること

全体として多かつた感動語録

- ◎共に学び共に生きる

- ◎水滴の一滴として生きる

- ◎人間は関係の中で生きている



総合司会 岡本ユウコ塾生



講師紹介 近藤宏枝世話人



西田京子塾生・伊藤恵子塾生・橋本美津枝塾生



交流会にて
野本三吉先生 同席

人間学塾・中之島 7月読書会

Aグループ

- テキスト 「一語一會」7月
- 指導 近藤 宏枝 世話人
- 進行 西村 俊幸 世話人



七月三日

真の「誠」は、何よりもまず己のつとめに打ち込むところから始まると言ってよいでしょう。すなわち誠に至る出発点は、何よりもまず自分の仕事に打ち込むということでしょう。

七月十五日

真に一人の思想家に学ぶということは、そのような思想を生み出したその人の生活態度に学ぶことの方に、より重点を置いて考えるべきでしょう。

七月十九日

以前は「念々死を覚悟して初めて真の生となる」の一語を『一日一語』の表紙裏にサインしましたが、大患後では「死を覚悟してこの一日を生きん」となりました。

七月二十四日

如何にささやかな事でもよい。とにかく人間は他人のために尽くすことによって、はじめて自他共に幸せとなる。これだけは確かです。

Bグループ

- テキスト 「ありがとうございます」201~225
- 指導 中川 千都子 代表
- 進行 山路 直美 世話人



(五) 無限の無限の感謝が一杯！

207

本心の心は、プラス（光）の心です。業想念の心は、マイナス（闇）の心です。プラスの心は、プラスと波長が合うのです。マイナス（闇）の心は、マイナス（暗いもの）と波長が合うのです。

211

宇宙絶対神の御心をそのまま自分の心として受け入れるには、謙虚に謙虚に、どこまでも謙虚に、素直に素直に、どこまでも素直になることが必要です。

219

プラスの言葉を使えば、プラスが実現するのです。マイナスの言葉を使えば、マイナスが実現するのです。すべては言葉通りになるのです。

225

神さまへの感謝報恩行を実行してゆくことが、本心開発の道です。神さまの大きな助けを受けて、過去世からの無限の業想念を消し去り、本心を開発していただく為には、ひたすらなる神さまへの感謝と報恩行が必要なのです。

あ田にも下い一野してれこらにけい分個れた
 り一はちさう人本たいまと動野てまか人のコまし
 ま清いろつこ間先ハくしとい本い自ち誌場ンたく
 す先つんたと学生ガのた次て先く分合のでミ森
 生も私のは塾とキだ。のい生このうや暮ユ先
 の私にだ、・の通とそ命くはと分こりら一
 おのととき中小信心のがと出だでと取しんが
 心近つ思つ之さ(深た生話会と実なりて)
 常にくてえと島なこくめまさい改践のをいに
 違にはて目一交だににれれこめしだ重てつ
 提い居森ないで交ま刻私る、そててとね良い唱
 なて信り見の通み達と生全確いお合いてさ
 い見三まえごが信まはいきて認る説いがは、れ
 とて先せな講年し、うるで致こき、
 確い生んい話月かた共こ目、しと下意手各
 信てで。力にをら。にとの出まをさ見紙人た
 す下そが繫重始=学とは会し、りやが、「
 るさりの働がねまこび続生いたや、感はそ開
 のる、力いるてつう生けきな。り私想がれかた
 で寺更はてと、た記きらるが更続もを、ぞれ

さ十四生と事てのか性ま=教のご忌しの
 さ五時の書が、人ら史し生育深遺=た日私
 のは野命の半自れ達ぐか教究。者者方を、今こと
 本二吉運の宅てでにい育家昭と。の偲森かと
 本三吉命会をあ届ハな者・和し野。ごび信らを、
 本三吉の談初つ=高四と本三吉講嚴三七
 おがめた「キ」。し群十生=本三吉講修先年次
 だ出叶てそ万難を出と生枝年=本三吉をさ生程の
 つ会い訪問で森き女十=本三吉と加藤聴て命のうと
 て森三のの月、題し藤彰=近できめ
 共に学び生きていく
 寺田一清先生に導かれて
 ③1 近藤宏

人間学塾・中之島 第14期 新たな一步へ

人間学塾・中之島 第14期 12月 記念イベントを開催！

日時 2025年12月20日(土)
13:00～17:00
会場 大阪大学中之島センター
10階 佐治敬三ホール
参加予定者
人間学塾・中之島塾生
人間学塾・中之島卒塾生
天分塾 卒塾生
講師 上田 昌先生

塾生の皆様の積極的な参加をお願いします

タヒチでは南国の風に癒され、アピアで
は青い海に別れを告げた。95日間の航海が
終わる朝、心に残るのは寄港地の景色と出
会い、そして地球の広さ。旅は終わらず、
また次の旅へ続く。

1998年6月に天分塾創塾。
14期を経て、人間学塾・中之島が「塾是」として引継ぎ2012年9月開塾。
人間学塾・中之島は、9月より第14期を迎えることになります。



幸福の本質を問い合わせてくる一冊。
本書第2講「道徳とは何か」一真的幸福へ向
かって一」は本年3月の当塾での講話と質
疑応答が掲載されています。
あなたの質問も活字になつてあるかも?
塾生必読の書。

『草舟言行録IV 幸福とは何か』(実業之日本社)

執行草舟先生新刊のご案内

塾生だより

南極クルーズに参加して

佐川 博敏 塾生

『人間学塾・中之島』次月案内

入塾式
塾生入場
代表挨拶
6階 E E

交流会 9階サロンアゴーラ

9階サロニアゴーラ

A large, white iceberg is the central focus, set against a dark, cloudy sky. The iceberg is massive, with a flat top and jagged edges. In the background, there are more icebergs and a dark, rocky shoreline. The overall scene is dramatic and cold.

編集後記
暦の上では、先日七日で秋となりましたが、まだまだ真夏です。異常ともいえるこの暑さ。残暑お見舞い申し上げます。

暑いといえば、第十三期の人間学塾・中之島も熱く燃えました！改めて第十三期ご卒塾、誠におめでとうございます。

緊張の入塾式にはじまり、常任講師の先生をはじめ多くの講師の方々に学ぶことができました。そして、素敵なお塾の方々と交流し、学ばせていただくこともできました。

卒塾文集を拝見していると、本期は山口、朴の森、松下村塾などの宿泊研修がよかつた、とのご感想が多かつたよう思います。一方、西尾千恵子塾生のご逝去など悲しいことも：この一年、本当に皆様においても、いろいろあつたと思います。新たな出会い。嬉しいこと。悲しいこと。辛いこと：いずれも皆様方の糧となつていいことは確かです。この一年の学びもちろん皆様の中で生きています。それを、それぞれ活かしていこうではあります。それから！本当にありがとうございました。